

平成25年度第3回成田市地域公共交通会議の概要

1. 開催日時

平成26年3月18日(火) 午後3時30～午後4時00分

2. 開催場所

成田市花崎町760番地
成田市役所 5階 503会議室

3. 出席者

(委員) 14人

一色副会長、宮田委員、岩澤委員、阿波寄委員、伊藤委員、
遠藤委員、山田委員、玉井委員、鶴澤委員、角谷委員(代理 望月)
成毛委員(代理 田中)、高中委員(代理 飯田)、池田委員(代理 池田)
今村委員(代理 平山)

(事務局)

交通防犯課 貝原塚課長、石井主幹、山倉副主査、萩原主任主事
高齢者福祉課 伊藤課長、神崎副主査

4. 協議事項

- (1) オンデマンド交通実証実験の経過報告について
- (2) コミュニティバスの運行内容の変更報告について
- (3) その他

5. 会議の概要

協議事項の概要は次のとおり。

議 長 : 協議事項(1) オンデマンド交通実証実験の経過報告について、高齢者福祉課より報告をお願いします。

高齢者福祉課 : まず、成田市オンデマンド交通実証実験について、ご報告いたします。

オンデマンド交通に関する資料は本日2点ご用意してございます。1つ目は成田市オンデマンド交通実証実験の報告について、2つ目は「成田市オンデマンド交通に関するアンケート調査」の結果報告について、となります。

始めに、オンデマンド交通の実証実験の報告についてですが、1頁目の①では、地区別に登録者数の状況をまとめております。市内全域では、70歳

以上の方が平成25年3月末時点で16,864名おり、その内、平成26年1月末現在で、2,200名の方が登録されており、全体の登録率は13%となっております。一番高い地区は豊住地区の34.7%で181名。次いで、久住地区の32.8%で230名となっております。また、実際に利用されている「利用率」が高い地区に関しては、豊住地区の47%、次いで、中郷地区の44.6%となっております。

②の全体の利用状況ですが、25年11月から26年1月の3か月分をまとめております。各月末の登録者数としましては、1月末では2,200名となっております。登録者数は毎月約50名程度増加している状況となっております。1月においては、1日あたりの平均利用件数が61.8件となっております。また、実利用者数は392名となっております。延べ利用件数が下がった主な要因としましては、年末年始の関係と、冬の寒さなどが影響しているものと思われま

次に、2頁から4頁までは、平成25年4月から平成26年1月までの登録状況と、利用状況を地図上で表したものになります。2頁が登録者の分布図、3頁・4頁が利用者の分布図となっております。はじめに、登録者の状況ですが、登録者が一番多い地区が下総地区名古屋の69名、次いで豊住地区北羽鳥の66名となっております。登録者の無い地区については白抜きとなっております。市内南部の遠山地区には空港がありますので、白抜きの地域が広がっております。また、下総地区では移転が行われた高倉地区が白抜きに、成田地区では、成田山とウイング土屋の地域が、さらにニュータウン地区では赤坂の商業地区が白抜きとなっております。3頁の利用者の分布ですが、平成25年4月から平成26年1月の間に毎月1回は利用している登録者の数を色づけしたものとなります。利用者が一番多かった地区は、下総地区名古屋、成井、豊住地区南羽鳥の4名となっております。4頁は、平成25年4月から、平成26年1月の間に1度でも利用したことのある登録者の数を色づけしたものとなります。利用者が一番多い地区は、豊住地区北羽鳥の28名、次いで同じく豊住地区南羽鳥の24名となっております。

5頁から8頁までは地区ごとの行先上位10ヵ所をまとめたものでございます。行先上位としましては、成田赤十字病院や成田病院は市内全域を通して移動が多く、また整形外科系の個人病院への移動も多くなっております。さらに、イオンモール成田や、イトーヨーカドー成田店などのスーパーへの移動も多く、買い物の移動手段として利用されているようです。下総地区では地区内にJR成田線が通っていることから、滑河駅までの利用が上位にはなっております。全体を通して、高齢者の移動手段としてオンデマンド交通が定着しているものと考えられます。

続いて9頁では、時間帯別利用件数を表しております。午前9時台から移動のピークを迎え、午後2時台をピークに帰路についているようです。ほぼ、

各月で同じような折線を示しております。上位の行先は表のとおりです。
以上で、オンデマンド交通実証実験の報告を終わります。

続きまして、関連がありますので、成田市オンデマンド交通に関するアンケート調査の結果報告に移らせていただきます。

この調査は、現在実証実験中のオンデマンド交通の利用状況等を明らかにし、利用者及び対象者のニーズ等を把握することで、今後の運行のあり方を研究する上での基礎資料を収集することを目的として、実施いたしました。10月に郵送方式により1,620名の方に発送しております。調査対象者は、3つの分類に分けております。まず利用登録者のうち、平成25年4月以降利用経験のある方を300名、利用経験の無い方を320名、そして、未登録者1,000名の合計1,620名を抽出いたしました。回答状況は、利用経験者が高く、未登録者が低くなっております。

結果につきましては、2頁以降をご覧ください。始めに性別では、登録・利用者で224名、登録・未利用者で197人、未登録者で506人の方から回答をいただきました。内訳については、表の通りとなります。次に、年齢に対しましては、回答者が多い順で、登録・利用者の75歳～79歳で79人、登録・未利用者が80歳～84歳で65人、未登録者が70～74歳で218人となっております。次に、居住地域につきましては、登録・利用者では下総・成田地区が、登録・未利用者でも下総・成田地区、未登録では、成田・ニュータウン地区が多くなっております。

4頁をご覧ください。世帯構成につきましては、どの利用状況におきましても、その他（70歳以下の同居者がいる世帯）の構成となっております。自動車やオートバイの運転免許証の保持率では、登録者では、特に利用経験者の運転免許証の保持率が低く、逆に未登録者にあつては保持率が高くなっております。また、自動車やオートバイの所有状況では、運転免許証保持率と同様の傾向にあり、未登録者においては、自己所有車の保有率が高くなっております。

6頁をご覧ください。ここでは、利用者登録をして、実際に利用されている方への調査をまとめております。まず、利用頻度といたしましては、月に2・3回が78人と最も多く、次いで月1回が69人となっております。また、オンデマンド交通を利用することで、外出が増えたかの問いには、どの地区においても未変化と答える方が多い一方で、増加と答える方もみられました。次に、オンデマンド交通が無かった場合の交通手段を尋ねたところ、家族や友人の車による送迎が74人、次いでコミュニティバスが67人、路線バスが60人、タクシーが53人の順となっております。運行時間につきましては、現在の7時半から17時半の運行に対し、良いという答えが多くありました。また、朝夕の運行時間帯の延長を望む声が寄せられております。

8頁の運行曜日につきましては、現在の月曜日から金曜日の運行に加えて、

土曜日の運行を望む声がありました。さらに、利用料金につきましては、どの地区においても、現在の500円が良いととらえているようです。目的地の乗降場数につきましては、概ね充足されておりますが、ニュータウン地区において増加を希望する声がありましたので、今後随時増設することが求められております。乗り心地につきましては、みなさん問題なく乗車されているようでした。

10頁をご覧ください。ドライバー、電話受付の対応につきましても、ほとんどの方が「良い」または「ふつう」の回答でした。また、友人関係の変化をお聞きしたところ、無変化が170人で大部分でありましたが、増加と回答する方も31人おり、オンデマンド交通によって、外出の機会が増えたことによる影響が見られました。さらに、ご自身の体調の変化を尋ねましたところ、「変わらない」が126人で多く、また「イキイキしている」「健康になっている」と答えるかたも62人おり、オンデマンド交通によって外出の機会が増えたことによる影響がみられました。最後に、オンデマンド交通が無い時と比べ、病院に行く回数が増えたかとお聞きしたところ、「無変化」が159人でしたが、「増加」と答える方も41人おり、オンデマンド交通によって、新たな交通手段が増えたことによる影響が見られております。

個別意見としては、166件ございました。内容としましては、制度へのお礼的なものが41%を占め、また、乗降場に関することや、運行方法に関するものでした。主なものとしましては、原文のままご紹介しますと、「運転手の皆さんはとても親切で助かります」「これからも利用させていただきます。いつも本当にありがとうございます」「時間がいつも正確で、指定の場所へ早めに来ています。ありがたい気持ちでいっぱいです」という意見や、「通院で利用し便利である」「集まる機会が多いのでオンデマンドは便利」というものがありました。

12頁をご覧ください。ここでは、利用者登録をされていても、実際に利用したことが無い方の結果でございます。まず、登録された理由をお聞きしましたところ、「今後、自分で移動が出来なくなったときに不安だから」が91人と最も多く、次いで「家族や友人などの送迎を頼めないときに使う」が80人となっており、今すぐ必要ではないが、いずれ必要な時のために登録したという方が多いようです。また、利用されていない理由をお聞きしたところ、「自分で自動車の運転ができる」が49人、次いで「家族や友人の送迎が便利」が41人となっております。さらに、普段の交通手段につきましても、「自分の車」「家族や友人の車」が多くなっております。

こちらのほうでは、個別意見として86件ございました。内容といたしましては、制度へのお礼や、乗降場数の増加を求めるものがそれぞれ全体の24%を占めておりました。こちらの主なものといたしましては、「自分の状況を見極め、必要になった時にオンデマンド交通を利用させていただくため、

とりあえず申し込みをした」というような方がいらっしゃいました。また「運転免許証を持たなくなってから利用します」という方、「今のところはひとりで殆ど外出できるが、この先体調を悪くしたときや、ケガの時など利用することがあると思う」というものがありました。

14頁をご覧ください。こちらは、利用者登録をされていない方への調査をまとめたものでございます。まず、オンデマンド交通の認知度を尋ねましたところ、「知っている」が255人、「知らなかった」が226人となっております。このアンケート調査を前後しまして、「地区敬老会」が開催されており、一人ひとりに周知チラシが配布されていることも、結果に影響していると考えられます。次に、登録や利用をされない理由についてお聞きしたところ、「自分で自動車の運転ができる」が131人で最も多く、次いで「家族や友人などの送迎が便利」が56人となっております。

オンデマンド交通の制度を知って、利用してみたいかどうかをお聞きしたところ、「利用してみたい」と考えた方が98人、「利用したいと思わない」とした方が144人であり、ご自身で移動手段をお持ちの方にとりましては、興味を持たれていないようでした。最後に、普段の交通手段をお聞きしたところ、「自分の車」が212人、「家族や友人の車」が111人となっております。こちらの個別意見としましては、23件寄せられております。内容としましては、「良い」または「将来使う」というものが38%、乗降場に関するものが20%を占めておりました。主な意見としましては、「これから先、高齢になって運転ができなくなったときに是非利用させていただきたい」「現在はマイカーで十分だが、将来運転に不安を感じるようであれば利用したい」というものがございました。

なお、このアンケートの結果につきましては、東京大学大学院との共同研究のデータとして、今後の考察資料として取りまとめを行うとしています。

以上で、オンデマンド交通に関するアンケート調査の結果報告とさせていただきます。

議 長 : ただいまの報告について、ご質問あるいはご意見のある方は、挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。

議 長 : 特に意見がないようですので、協議事項（1）平成26年度のオンデマンド交通実証実験の経過報告につきましては終了させていただきます。続きまして、協議事項（2）コミュニティバス運行内容の変更について、担当課より説明をお願いします。

交通防犯課： それでは、コミュニティバスの運行内容の変更についてご説明いたします。

交通防犯課資料1をご覧ください。この資料はコミュニティバスしもふさ循環ルートの時刻表及び運行経路図を両面刷りしたものでございます。

まず、時刻表の面をご覧ください。こちらは前回の会議でご説明した部分が、上部の青く色づけされた部分でございます。こちらは、高倉地区における集落の移転が完了する関係で、集落内を通らずに運行するルート変更にあたる部分でございます。

また、中段以降に黄色く示してある部分でございますが、こちらが前回の会議の後に変更の検討を行った部分でございます。中段の右側の時刻部分に色をつけてあるものについては、市民の方からJR滑河駅との接続を図ってほしいとのご意見が寄せられました。現在、JR滑河駅に上り方面の電車が15時10分に到着しておりますが、この電車から名古屋方面に向かうバスに乗り続けると便利であるとのご意見をいただきました。この乗継を実現させるためには、現在の出発時刻より2分ほど遅らせる必要があります。現在の利用状況を調べたところ、下総高校の学生が下校の為に利用するというものが殆どでありました。そこで、下総高校に時刻変更に関する意見を伺ったところ、ホームルームの延長等が発生する関係で、時刻は遅いほうありがたいとの意見をいただきました。現状の利用者に影響がないこと、時刻変更により利便性の向上が見込まれることから、本年4月より、時刻の改正を実施したいと考えております。

次に、時刻表左下の部分でございますが、バス停の名前が3つほど黄色で示してございます。こちらが本年4月の下総統合小学校の設立に伴いまして、各小中学校の名前を冠したバス停の名称変更を行います。まず、新しく設立される小中一貫校の名称が「下総みどり学園」となることから、現在の「下総中脇」というバス停を「下総みどり学園脇」と変更いたします。また、高岡小学校跡については「高岡運動施設」として利用されることから、同様にバス停の名前も変更いたします。もう1か所の名木小学校跡地ですが、現在のところまだ利用の予定が立っていないとのことですので、こちらは「旧名木小前」と名称変更をして、当面の間は利用をいたします。こちらのバス停の名称変更については、地元の区長様と相談をさせていただきまして、同意を得ております。

以上、コミュニティバスの運行内容の変更についてご説明させていただきました。

議 長： ただいまの協議につきまして、ご意見やご質問等ありますでしょうか。

委 員： ルートについては、大栄・下総地区において難読地名があることから、会議の時だけで構わないので、読み仮名をふってもらえるとありがたい。

交通防犯課： 対応いたします。

議 長 : 他に意見がないようですので、ただいま説明のあった協議事項（２）コミュニティバスの運行内容の変更報告につきましては、終了させていただきます。

以上をもちまして、協議事項を終了させていただきます。貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

6. 傍聴

(1) 傍聴者 なし